

(済々黌高等) 学校 令和3年度(2021年度)学校評価表

1 学校教育目標	
本黌建学の精神である三綱領を根幹とし、徳育・体育・知育の三育併進、文武両道の気風を尊重し、一つ一つの教育活動を着実に実践し学校の活性化を目指す。生徒を育成するに当たっては	
1 他者への思いやりを大切にし、社会に貢献する生徒の育成	
2 心身ともに逞しく豊かな人間性を備えた生徒の育成	
3 志を高く持ち、自ら求めて学ぶ生徒の育成を目指す。	

2 本年度の重点目標	
(1) 社会に貢献できる生徒(グローバルリーダー)の育成	
(2) 生徒指導の充実	
(3) 心身の健康の保持増進及び安全教育の徹底	
(4) 学力の向上	
(5) 進路指導の強化	
(6) 学校全体へのSGHの成果の普及推進	

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学 校 経 営	建学の精神の継承	教育活動の中での三綱領の理念の実践	三綱領の精神を理解し、自らその実践に励む生徒を育成する。	・学校全体で取り組み、様々な教育活動の場に触れ意識させる。	3.4 A	新型コロナウイルスの影響は依然として大きいですが、コロナ禍での学校生活への慣れもあり、運動会も実施できたため、本項目に対する評価は上がっている。特に生徒からの評価は3.55と高い。
	SGH成果の学校全体への普及	グローバル人材の育成	来年度の校外研修・海外研修をより充実させるために内容を検討する。	・済々未来企画委員会が立案して、学校全体で取り組む。	3.0 A	新型コロナウイルスの影響で今年も海外研修は中止となった。来年度は研修先にハーバード大学を加えており、より充実したものになると思われる。
	学校の活性化	学校行事の工夫・改善	生徒に活躍の機会を与え魅力ある学校作りを目指す。生徒と向き合う時間の確保を図る。	・運営委員会を定期的実施し検討・協議の機会を確保する。 ・PDCAサイクルを機能させ年度内に改善するよう努める。	3.2 A	新型コロナウイルスの影響で多くの行事が中止となったことで、これまでの取組を見直す良い機会となっている。コロナ禍の状況を見ながら修学旅行のような重要な行事を行うこともできた。
	職員の資質向上	校内研修の充実	校内研修を通じて職員の資質向上を図る。	・各々が立案し、当面の課題に対し学校全体で取り組む。	3.1 A	予定していた研修はほぼ実施できたが、更に充実させたい。
学 校	安全管理	施設・設備の保守・点検	危険箇所には迅速に対応する。	・定期的な安全点検に加え、報告・連絡・相談を確実に行う。	3.2 A	修理等の要望には迅速に対応できた。職員個々の更なる安全意識の高まりに期待する。

経営	言語活動の充実	グローバル社会をリードする人材育成のための言語活動の充実	論理的思考力、課題解決力養成のための言語活動を推進し、授業改善にもつなげる。	・各学年で論理的思考力を伸ばす論文指導を推進する。 ・各教科で言語活動の充実を図り、授業改善につなげる。	3.2 A	各教科、課題解決力養成のための授業改善に取り組み、生徒の意識も変化しつつある。来年度も継続して行う。
学校経営	業務改善	職員の負担軽減	行事の精選と、業務内容の整理及び簡略化を行う。	・家庭訪問の代わりに三者面談を行う。 ・アンケートはICTを活用して行う。	3.4 A	必要に応じて家庭訪問も行ったが、ほとんど三者面談を実施した。今後もそのつもりである。ICTによるアンケートもほぼ定着しつつある。
	働き方改革	職員の健全な心身の維持	職員の長期休暇中の特休取得率100%、年休取得日数20日以上となる。	・学校閉庁日を5日間設定する。 ・長期休暇中の在宅勤務を推進する。 ・休暇を取得しやすい雰囲気を作る。	3.1 A	4日間の学校閉庁日を設けたことでリフレッシュできた。長期休暇中の特休取得率は92%である。時間外勤務時間も1昨年度より減少傾向である。ただし、年休取得日数は8.1日と昨年よりも約1.4日少なくなっていて、引き続き働き方改革を推進していく必要がある。
学力向上	基礎学力の充実	学習時間の確保	平日2時間以上の家庭学習時間を確保させる。	・帰宅時間・睡眠時間等、生活時間の見直しをさせる。 ・家庭学習時間調査の結果を踏まえ主体的に学習に取り組めるよう指導を強化する。	3.1 A	昨年度2.9から評価が上がっている。教師・生徒ともに、コロナ禍における家庭学習への対策を進めてきた結果であると考えられる。 家庭学習時間調査結果が学年・担任レベルにとどまらないよう、各教科に積極的な活用を呼びかける。 生徒を主体的な学習に導く授業改善、週末課題等の工夫・精選を推進する。
	わかる授業・考える授業の創造	教師の指導力の向上	生徒の学習意欲を高める指導を実践する。	・教科会や公開授業を充実させ、生徒が主体的に考える授業展開の工夫、教材の研究に努め、生徒にわかる授業、実力をつける授業を実践する。 ・授業評価アンケートを実施し、生徒の実態・要望などを把握し活用する体制を作る。 ・必要に応じ、オンライン授業を展開する。	3.2 A	公開授業は、その目的を明確にして参観を促し、公開授業週間に限らず、日常から先生方に負担なく授業参観等ができる仕組みを提案する。授業評価アンケートは、今後先生方の授業改善に活用していただけるよう、継続的に見直しを図っていく。分散登校中は各教科工夫を凝らし、オンライン授業を実施する教科もあった。

キャリア教育（進路指導）	生徒の進路目標の実現	生徒の進路意識高揚に向けた取組の実践	進学資料の提示や、可能な限りリモートによる講演会、出張講義などを実施し丁寧な個人指導を行う。	・継続的に刺激を与え、将来のキャリアを主体的に考え、自らの可能性にチャレンジする生徒を育む。 ・面接指導を充実させ生徒を理解し、信頼関係の構築と適切な進路指導に繋げる。	3.4 A	コロナウイルスの影響で、対面での講演会は減少したが、進学資料の提示やリモートによる講演会や出張講義などを実施し、面談等丁寧な個人指導を行った。
		教師の教科指導力の向上	難関大入試に対応しうる教科指導力をつけ、魅力的な授業・課外を実践する。	・教科会と連携し指導力向上と指導法の継承に努める。 ・校内模試の更なる充実を図り、結果を活用する。	3.3 A	入試問題の分析、解答解説の作成を行い、校内模試を吟味することにより、より一層の生徒たちの活用に資するものにする。また、入試問題研究の生徒への還元を目的とした研究授業の実践をもっと広めたい。
		教師の進路指導力の向上	3年間を見通した進路指導の実践力をつける。	・校内での進路に関する職員研修や学力検討会、進路検討会を実施する。	3.4 A	保護者・生徒ともに評価が高かった。個々の生徒の第1志望目標達成に向けた各学年の指導者間のチームワークがきちんととれているように思われる。各学年の横の関係だけではなく3年間を見通した学年間の情報の共有を図る取組を行っていくことが課題である。
生徒指導	濟々覺生としての矜持を持たせる指導	徳育の推進	「他者を思いやる心」の育成を図り、社会的倫理観を醸成する。	・生徒会行事等において協力し支え合う姿勢を養う。 ・教育相談部と連携して、いじめを未然に防ぐ取組を行う。	3.3 A	機会を捉えモラルの向上を呼び掛け「心の教育」を大切にしているが、思いやりに欠ける言動は皆無ではない。
		基本的な生活習慣と自己規律の確立	時間の厳守や端正な服装の徹底など基本的な生活習慣を確立させる。	・学校全体で各学期登校指導を実施する。 ・全職員共通理解のもと、一貫した指導を行う。	3.5 A	各学期の登校指導は実施できた。服装・頭髪等は概ね良好であり、特に生徒・保護者の評価は高い。今後も全職員による一貫した指導を継続する。
	安全教育の徹底	交通ルールの遵守と安全意識の高揚	社会のルールや規則等を遵守するもに防犯意識を高める取組を実施する。	・交通講話・実技講習会を実施する。 ・二重ロックの励行を生徒交通委員会主体で行う。	3.3 A	自転車通学生の事故は37件だった。昨年度の19件から増加している。今後とも、生徒の安全意識を高めていく必要がある。自転車二重ロック点検を行うとともに交通事故後の対応を適切に行うよう徹底させる必要がある。※数値は共に1月末。

人権教育の推進	豊かな人権感覚を身に付けた生徒の育成	知識的側面からの取組	人権教育における学習指導の工夫改善を行う。	・生徒及び職員に対し校外研修への参加を促す。 ・人権教育LHRや講演会を計画的に実施する。	3.3 A	職員研修では適正採用選考などについて学んだ。アンケートで把握したいじめ事案には迅速かつ適切に対応した。職員研修、人権教育LHRについては人権教育推進委員会を通して改善を図る。「学校いじめ防止基本方針」の周知徹底、及び、アンケートの有効活用を図る。
		価値的・態度的側面からの取組	生徒一人一人の心の内面に働きかけるような指導を行う。	・面談を充実させ生徒が悩みを相談しやすい環境を作る。 ・生徒理解のための職員研修を定期的実施する。 ・人権教育推進委員会を適宜実施する。	3.4 A	生徒理解のための職員研修を2回実施した。生徒のみならず保護者もスクールカウンセラーとの面談がしやすいよう配慮し、活用いただいた。
	命を大切に育む指導	教材の精選と職員の共通理解	関連する教科・領域等の学習を組み合わせることで単元を構成し、多様な指導を実施する。	・全学年とも、計画的に指導を行う。 ・感想の集約等から指導を振り返り次の指導に繋げる。 ※SOSの出し方に関する教育と連動	3.1 A	各教科や特別活動などを中心に取り組むことができた。SOSの出し方教育では、自己肯定感のアンケートを実施し、生徒の把握に活用した。
いじめの防止等	いじめの未然防止	積極的な啓発活動の実施	いじめをしない・させない・許さない態度を堅持させる指導を徹底する。	・ストレス対処教育のエンカウンターを実施する。 ・生徒会を中心とした啓発活動を行う。 ・いじめ防止対策委員会を毎学期行い、生徒の状況の把握と対応に努める。	3.3 A	1年生は授業再開後にエンカウンターを実施した。また、いじめの未然防止については生徒指導部からも繰り返し注意喚起を行った。いじめ防止対策委員会を計画的に開催しスクールカウンセラーからの助言を受けた。
	いじめへの迅速な対応	いじめの早期発見・早期解決と再発防止	いじめまたはいじめを疑われる事態が発生した場合、被害・加害双方の生徒に速やかに対応、指導を行う。	・いじめ人権アンケートにより実態把握と早期発見に努める。 ・いじめ防止対策委員会を開催し問題解決に努める。 ・情報を共有し、事後も指導を継続する。	3.2 A	予定どおりアンケートを実施したが、いじめ問題は皆無ではなかった。今後もいじめを未然に防ぐ取組を教育相談部や各学年部と連携を密にしながら行う。
健	健康で安全な生活を送るための実践力の育成	生徒の心身の健康管理と傷病予防	コロナウイルス、熱中症、インフルエンザなどの健康状態を把握し、健康で安全な生活を送れるよう指導する。	・生徒保健委員会による「保健だより」の発行や注意事項の掲示により啓発する。	3.4 A	毎朝健康調査を行い、生徒の健康状態の把握に努めた。生徒保健委員会もコロナウイルス感染拡大防止を意識づけるため、保健だよりや掲示物だけでなく、放送や見回り等の啓発活動を継続し、生徒へ注意喚起を促した。また、ICTを活用して学校独自の健康観察システムも作成した。

康 教 育			熊本地震後の生徒の心身の健康管理を行う。	・心と体の健康調査や保健室来室状況から実態把握に努め、職員間で情報を共有し対応する。	3.4 A	昨年度より保健室在室者が多い。特に1・2年生が多く、コロナ禍で上手に高校生活を開始できなかったことが影響していると思われる。今年度は熊本地震の影響がみられる生徒はいないが、今後も配慮を要する生徒には職員、カウンセラー、関係機関と連携しながら対応していく。
	教育環境の整備	清掃指導の徹底と環境保全の意識や奉仕の精神の育成	毎日の清掃を生徒、職員全員で実施し、校内の環境整備を行う。	・学校環境衛生検査及び毎月の安全点検を実施する。 ・美化委員による校内環境の整備を行う。	3.4 A	掃除目標を立て、目標どおりに掃除を徹底することができた。一方、エアコン・電灯の消し忘れも多く生徒・職員の環境保全への意識を高める工夫が必要である。
図 書 館 教 育	読書習慣の形成	読書指導の推進	情報提供、時間の設定により読書意欲を高め、図書館利用を促し、読書習慣を身に付けさせる。	・「図書館便り」「麒麟児」「碧落」の発行、生徒図書委員会の広報活動を活発に行う。 ・年に2回「朝の読書」週間を実施する。	3.3 A	貸し出し冊数は昨年度より若干増加した。(1月末現在5610冊)評価も昨年度とほぼ同じ数値で高い数値になっている。季節に合わせた企画や「図書館便り」等広報活動も充実している。今後、朝の読書週間が更に充実するよう工夫する。
	学習活動支援の充実	蔵書や設備の充実	資料の充実と環境整備をすすめる。	・自学ができるように館内のレイアウトを工夫する。 ・各教科との連携を図り、必要な資料を収集する。	3.4 A	館内のレイアウトを変更し、自学ができる環境が整ってきている。また、検索性PCも4台設置され、書架や蔵書も充実した。タイムリーな企画展示で生徒の興味関心を広げることができており、各教科・各学年から更に情報を収集し、企画コーナーをより充実させる。
保 護 者 と	同心会(PTA)と学校の積極的な連携・協力	連携を深め、円滑な校務運営を行うための情報提供	保護者への情報提供に努め、本校教育への理解と協力を得る。	・学校HP・同心会HPと会報「同心」の充実と一斉メールの活用をする。	3.3 A	学校HPの更新が早くされつつある。学年ごとの行事などの記載を増やす等工夫が必要である。総務以外の更新者も育成しなければならない。コロナ関係の連絡で、一斉メールは昨年より活用したが、保護者からの評価は下がった。

の 連 携		P T A活動 の活性化	学校行事等への 参加・協力を促 すと同時に、各 種委員会を活性 化させる。	・行事の案内など迅速 に連絡を行う。 ・来年度中央地区理事 校としての準備を進め る。	3.2 A	コロナの影響で、総会をは じめ多くのPTA活動が中 止となった。来年度は少し でも例年どおりの運営がで きる環境になることを願う。 中央地区理事校としての 勤めを無事果たした。
地 域 連 携 (コ ミュ ニ ティ ス ク ール など)	学校運営 協議会委 員(防災 型)との 連携・協 力	連携を深め 、防災・減 災を図るた めの情報共 有	学校運営協議会委 員と学校との情報 共有に努め、理解 と協力を得る。	・防災型コミュニティー スクールの円滑な運用を図 る。 ・地域と連携した防災 訓練・A E D講習会を 実施する。	3.0 A	コロナの影響で、予定し ていた活動ができなかつ た。実質的な活動は1年間 延長されたが、今年度か ら総合型コミュニティー スクールとしてスタート している。

(1) 自己評価について

- ・コロナ禍で新しい生活様式となり制限が多い中で、色々ご苦労も多かったことと察しますが、その様な中でも出来ることを工夫して実施されていると思います。(同趣旨複数)
- ・目標や方策、成果と課題など詳細に書いていただき、ありがとうございます。1つ意見としては、評価の部分(3. 4やAなど)の記載が初めて見るものからはよく分からなかったのもので、その辺の説明について記載するとより良くなるのではないかと。
- ・どの項目も高い評価で素晴らしいと思います。“三綱領の理念の実践”の評価や業務改善の高評価は管理職の先生方の取り組みの成果の表れと認識しました。また、進路指導や生徒指導、心身の健康管理等、きめ細かなご指導とご支援が行われていることが窺えました。
- ・細やかに教育活動の振り返りが成されていると思います。少々評価基準が高く、厳しく自己評価されていると思います。生徒の日常の様子を見てもっと高くてもよいような気がします。特に今年度はコロナ対策等、大変な年であったと思います。一年間子ども達を守り抜いてこられた先生方に、取り組みの成果であることをお伝えしたいです。
- ・コロナ禍で、地域連携が厳しい状況でしたが、学校独自に防災に関する授業をしたり、シェイクアウト訓練を実施したりと、生徒や先生方への防災意識を高める取り組みをされているため、今後は是非継続していただきたいと思います。
- ・コロナの影響が大きい中、子ども達と向き合う時間を大切にされている先生方の姿勢がありがたいです。家庭学習時間の増加など評価できる反面、講演会などのリアルな行事の減少が可哀想だと感じる。
- ・評価については、すべての項目について様々な改善がなされており、3. 0以上の評価であり、良好。
- ・コロナ禍で、「生徒への教育指導」「保護者への対応」など色々工夫して実施されている姿がよくわかりました。できれば、工夫した「生徒への教育指導」の具体的な内容を、対面でお聞きしたかったです。
- ・令和2年度と比較すると、ほとんどの項目で評価が上がり、目標に向けて頑張っていることがうかがえました。4項目評価が下がったので、令和4年度はこの4項目での評価が上げられればと思います。
- ・建学の精神である三綱領を根幹とし、今も継承し実践されておられる教職員の皆様に、本覺OBの1人として心より感謝申し上げます。文明は進んでいますが、徳育、体育という視点からの教育・育成が今後、益々重要になってくると思われまます。学校運営協議会の資料を読み、先生方の仕事のハードさを改めて感じました。コロナ禍にあつての授業等大変ご苦労されておられると推察します。それにも拘わらず、令和3年度は平野宣せと生徒の皆さんで、子飼商店街の活性化に取り組んでいただきました。これは一朝一夕に出来るものではありませんが、高校生の視点からの提言に新鮮さを感じています。これをきっかけとして、済々黌と子飼商店街の関係が永く続いていけば有難いと思います。

(2) 次年度への課題・改善への方向性について

- ・逆境の中に加速したりリモート、ICT等を更に充実、定着させ、私たち消防も新たな連携を強化していきたいと思ひます。
- ・立てた目標に沿って、今後も成果を残していられることを期待しています。
- ・本校には、済々黌高等学校に憧れている生徒が多く、中学1年の総合的な学習の時間(地域学習)で、済々黌について調べるグループもありました。今年度はコロナ禍で交流できませんでしたが、来年度は何らかの形で中高の連携ができれば幸いです。
- ・毎朝しっかりした足取りで園の前を歩いていく女生徒がいます。一生懸命です。荷物も重そうです。思わず「がんばってね。毎日早いね。」と声をかけました。「ありがとうございます。」と爽やかな返事。今の学校の良さを、そのまま伸ばしていただきたい。園の方としても交流の再開を願っています。
- ・出来る範囲で、防災機関(県・市・消防・警察)と連携した防災教育、訓練等について検討してはいかがでしょうか。双方の意思疎通など連携強化にもつながりますし、少しは生徒達の意識向上に有効に働く部分もあるかもしれません。
- ・コロナ禍は、今までの弱点をあぶり出したと同時に、よく改善できるきっかけともなっています。今後とも三綱領の具現化を目指してほしいです。
- ・課題に対して各種取り組みが計画されている。
- ・当行は子飼商店街に活性化で少し関わりを持つ事ができたが、他にも協力できることがあれば声かけいただきたい。
- ・2月より黒髪地区の企業等で毎日21日の朝、交通安全や交通マナー向上に向けた旗振りを行っており、今後学校と協力しながら取り組んで生きたらと考えます。
- ・グローバル部の活動など地域と共有できると良いですね。
- ・コロナ禍が落ち着くのは、年末頃だと思われまます。コロナ禍で工夫されました「生徒指導」を活かして次年度もよろしくお願ひします。

- ・難関校の合格者を増やしてください。(OBとしての希望)
- ・交通マナーといじめの問題は今後の課題と思います。
- ・現在職場でもSDGsが進められていますが、その中の一つにペーパーレス化があります。学校でも取り組まれています。今回の資料や評価もメールで行っていただけると良いのではないかと。セキュリティー等で難しいと思いますが、ご検討よろしくをお願いします。
- ・子飼商店街の活性化について、活動時間が少ない中で色々なアイデアを出し、実行されました。次年度(令和4年度)は、その中で実行可能なものを確実に実行するという姿勢が大切だと思います。1つでも仕上げるには時間もかかるので、商店街の人達とも良く打ち合わせし、実行することで達成感を得て、再び新しいアイデアが生まれる可能性もあると思います。

5 総合評価

職員による4段階の評価に基づいて示した評価結果の平均は、全ての評価項目において概ね「3」となった。平均すると「3.23」であり、全体的には概ね達成できていると判断できる。微差ではあるが、昨年度より上がっているところを見ると、コロナ禍の中での各部署の工夫の効果が表れているようである。保護者や生徒からのアンケートについても評価は高かった。

評価が最も低かった「SGH成果の学校全体への普及」と「学校運営協議会委員との連携協力」についても3.0であったので、一定の評価がなされていることが分かる。「学校運営協議会委員との連携協力」については、コロナの影響で予定していた活動が実施できなかったことが、評価があがらなかった原因である。「SGH成果の学校全体への普及」については、昨年同様「3.0」という評価ではあった。コロナの影響で校外研修・海外研修ともに中止した影響があると考えられる。一方で、12月に行われた「済々黌未来探究成果発表会」では2学年全員がプレゼンテーションを行い、充実したものとなった。学校運営協議会の方から高い評価をいただいた子飼商店街との連携等の探究活動もできた。

昨年度最も評価が低かった「基礎学力の充実」については、「3.1」となり、昨年度2.9から評価が上がっている。ICT化を含めて教師・生徒ともに、コロナ禍における家庭学習への対策を進めてきた結果であると考えられる。

6 次年度への課題・改善方策

コロナ禍の終息の時期は見通しが立たない中、本覚の本来の目的である三綱領の体现者の育成を目指し、様々な取り組みを行ってきた。

「グローバルリーダーの育成」のため、海外研修等の代替案として、台湾との交流や旅行者が企画したオンラインによる海外交流等を生徒に案内したが、更なる海外交流の代替案を考えていく必要がある。「総合的な探究の時間」では、出来る範囲で地域と連携した探究等も行い、12月に行われた「済々黌未来探究成果発表会」では生徒の満足度も高く充実したものとなった。今後は、防災教育や交通マナー指導に関しても地域との交流や協力を行っていきたい。

コロナ禍で、様々な学校行事が中止となったことが、業務を見直すきっかけとなった。働き方改革という面からも慎重に検討し、改善につなげたい。ICT化に関する一層のスキル向上についても対応していく必要がある。